

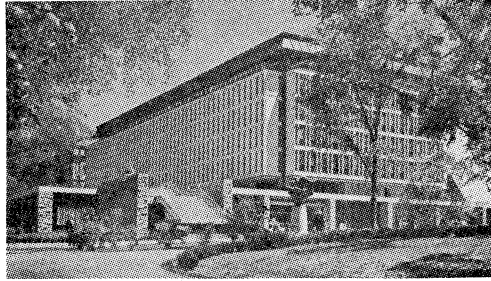
CORNELL 大学の図書館を利用して

森 本 尙 武

ニューヨーク市とナイヤガラの滝との間に横たわる幾つかの氷河湖 Finger Lakes のひとつ Cayuga 湖の南端に位置する人口3万の小都市が Ithaca である。Cornell 大学は Ithaca 市を見下す台地にあり、州立と私立の14学部のものから成っている。授業料は学部によって異なるが、講義や利用施設についての差別はいっさいない。図書館は日本と同じく総合図書館2つ、準総合図書館1つをもち、それらの出先機関として各学部それぞれ図書室をもっている。総合図書館はそれぞれ OLIN, URIS Library, 準総合図書館は MANN Library と呼ばれ、それぞれ創設者の名前をとった、立派な7~8階建のビルである。このうち URIS は学部学生用として基礎的な図書を、MANN は農学部と家政学部の College Library で、自然科学系の図書のみを収容している。

毎年の予算も多く、このうちの多くが人件費に使えるのもうらやましい限りである。管理専門事務員の他に part time の学生アルバイトがあたり、何人も交代で適所に配置され、返却図書の整備にあっていた。このほか図書館利用上の一さいの相談役もあり、実に機能的に動いていたと思う。

利用度の高い図書は同じものが何冊も備えられ、何時でも利用できるようになっている。しかし、貸出期限が切れると、理由のいかんにかかわらず罰金が課せられ長びくほどその額は高くなるので、利用者もうかうかできない。この罰金は学生アルバイト代等に使われるが、利用者も必要な時には罰金承知でやって来るので、自然に同じ本が何冊も準備されることになるのである。この罰金も年間額がほとんど一定で相



当の額になるらしく、学生アルバイトも必要な時には多人数補える仕組みになっている。

図書も非常に美しく保管され、線をひいたり落書したものは一度も見受けたことはなく、図書は自分のものであると同時に他人のものであるとの意識がはっきりして、実に気持がよかった。閲覧室も比較的小さい室がいくつもあって、落ち着いて勉強できるようになっている。室内では勿論、喫煙、雑談は禁物で、首をあげてよそ見する者すらいない。こういった雰囲気の中で勉学に励むことこそ学生本来の姿であると痛感した。開館時間は 8.00AM~11.30PM で、家で勉強するよりも、その雰囲気にとけ込んでやった方が能率的であるから、いきおい図書館も満員の盛況である。この他図書館の出口に私物検査所があり、禁帯出図書など図書の万一の紛失、盗難を防いでいたのも印象的であった。

以上簡単に気のつくままを書いてみたが、一口に言って、いつでも気軽に利用し、よく勉強できる場であるように、常に運営委員会が動き、積極的に利用者の不満、希望を検討し改善して行こうとする気運があり、また利用者も、常に公共の場、および物であることを自覚し、非常によい勉学の場であった。

(農学部助手)